

学生フォーミュラ大会 走行性能や耐久性競う

小笠山総合運動公園で始まる



車検でドライバーの安全基準や車両に不具合が無いかを確認する審査員と学生＝袋井市などの小笠山総合運動公園で

大学生や専門学校生らが設計・製作したレーシングカーの性能を競う「第十五回全日本学生フォーミュラ大会」(公益社団法人自動車技術会主催)が五日、袋井市と掛川市にまたがる小笠山総合運動公園で始まった。九日まで。入場無料。

チームが参加する予定。県内は静岡理工科大、静岡大、静岡工科大、自動車大学の計四チームがエントリーする。初日は、設計要件の適合性、ブレーキなどをチェックする車検のほか、学生らが生産コーストについて審査員に説明した。六日も車検があり、七～九日は直線やターン、スラロームなどを組み合わせたコースを実際に運転し、走行性

能や耐久性を競う。ICV、EV両クラスに出場する静岡理工科大フォーミュラプロジェクトのリーダーで四年の牧野駿さん(三三)は「目標はICVが六チーム残るファイナル進出、EVは異なるコースで競う全四種目完走」と話す。(高柳義久)